

ケニア

2022年11月30日
海外調査部・ナイロビ事務所

2021年のケニア経済は、新型コロナウイルス感染症拡大から回復し、実質GDP成長率は7.5%だった。特に、ホテル・レストラン業は経済活動の再開で前年比52.5%増と好調だった。一方、主要産業の農業が不振に陥り、0.2%減とマイナス成長となった。貿易収支については、燃油価格が上昇したことで約128億ドルの貿易赤字となった。

■経済は回復傾向も、主要産業の農業は不振

2021年の実質GDP成長率は約30年ぶりのマイナスだった前年からプラス成長に転じ、7.5%となった。産業別の伸び率をみると、ホテル・レストラン業が52.5%増（構成比1.0%）、教育が21.4%増（構成比4.3%）と好調だった。コロナ禍前の水準には及ばないものの、各種規制が撤廃され、外国人の訪問者数は2020年の57万9,600人から2021年には87万1,300人と50.3%増加した。そのほか、経済活動の再開で金融業は12.5%増（構成比7.1%）、建設業は6.6%増（7.0%）となった。前年は0.4%減と停滞した製造業は6.9%増とプラス成長に転じたが、構成比は全体の7.2%で、ウフル・ケニヤッタ政権（当時）が2022年までの目標としていた15%には届かなかった。構成比で最大の22.4%を占める農林水産業の伸び率は0.2%減で、唯一のマイナス成長となった。雨期の開始時期が遅れるなど、気候変動の影響を受けたことが要因とみられる。

■貿易額は増加、貿易赤字が拡大

貿易額は輸出入ともに増加傾向で、特に油価と建設需要の上昇で輸入額が輸出額を大きく上回り、貿易赤字は前年の94億ドルから36.9%増加し、128億ドルに拡大した。

輸出額は前年比12.1%増となる68億ドルだった。最大の輸出品目は21.8%を占めるコーヒー、茶などで15億ドル、切り花を含む植物（構成比11.9%）が8億ドルで続いた。

輸出相手国をみると、最大の相手国はウガンダで、輸出額の12.3%を占めた。主な輸出品目は塩、食用油、鉄鋼など

表1 ケニアの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:1,000ドル、%)

だった。続くオランダ（構成比8.3%）は、6割以上を切り花が占めた。3位は米国（8.0%）で、6割以上が繊維製品だった。ケニア原産品を米国

品目	輸出 (FOB)				品目	輸入 (CIF)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
コーヒー、茶、香辛料	1,469,452	1,471,621	21.8	0.2	鉱物性燃料	2,180,570	3,513,934	17.9	61.2
植物	635,239	805,205	11.9	26.8	機械類	1,433,105	1,596,035	8.1	11.4
食用野菜等	295,382	302,408	4.5	2.4	自動車	1,116,023	1,371,204	7.0	22.9
ナッツ等	216,208	282,248	4.2	30.5	鉄鋼	931,636	1,284,618	6.6	37.9
鉱物性燃料	406,491	280,609	4.2	△ 31.0	電子機器	1,198,722	1,192,711	6.1	△ 0.5
鉱石、スラグ、灰	206,407	258,551	3.8	25.3	動物性・植物性油脂	864,367	1,056,015	5.4	22.2
繊維製品	198,602	231,364	3.4	16.5	穀物	796,452	1,035,134	5.3	30.0
動物性・植物性の油脂	189,005	218,825	3.2	15.8	プラスチック製品	705,518	982,258	5.0	39.2
鉄鋼	126,343	165,372	2.4	30.9	医療用品	690,038	770,533	3.9	11.7
塩、硫黄、土石類、石灰等	84,371	159,876	2.4	89.5	鉄鋼製品	295,166	474,871	2.4	60.9
合計（その他含む）	6,023,442	6,751,366	100.0	12.1	合計（その他含む）	15,405,371	19,594,118	100.0	27.2

(出所) Global Trade Atlas (ケニア統計局) からジェトロ作成

へ輸出する際には、米国のアフリカ成長機会法（AGOA）を適用することが可能で、関税が免除となるが、同法は2025年に終了する見込みで、延長のめどは立っていない。現在ケニアは、米国と自由貿易協定（FTA）締結に向け断続的に交渉を行っている。

表2 ケニアの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2020年 金額	2021年 金額	2021年 構成比	2021年 伸び率	2020年 金額	2021年 金額	2021年 構成比	2021年 伸び率	
ウガンダ	674	832	12.3	23.5	中国	3,394	4,026	20.5	18.6
オランダ	458	562	8.3	22.8	インド	1,771	2,107	10.8	18.9
米国	464	543	8.0	17.1	アラブ首長国連邦	867	1,628	8.3	87.9
パキスタン	514	485	7.2	△ 5.6	サウジアラビア	648	1,046	5.3	61.4
英国	469	451	6.7	△ 3.9	日本	823	892	4.6	8.5
タンザニア	295	410	6.1	38.9	マレーシア	428	855	4.4	99.8
アラブ首長国連邦	324	315	4.7	△ 2.6	米国	531	802	4.1	50.9
ルワンダ	237	278	4.1	17.5	韓国	192	495	2.5	157.6
コンゴ民主共和国	134	223	3.3	66.0	タンザニア	258	490	2.5	89.7
中国	139	200	3.0	43.6	エジプト	421	446	2.3	5.8
合計 (その他含む)	6,023	6,751	100.0	12.1	合計 (その他含む)	15,405	19,594	100.0	27.2

(出所) Global Trade Atlas (ケニア統計局) からジェトロ作成

輸入額は前年比27.2%増となる196億ドルだった。最大の輸入品目は燃油などの鉱物性燃料（構成比17.9%）で、61.2%増だった。国際的な取引額の上昇が影響したとみられる。

輸入相手国をみると、最大の輸入元は中国（構成比20.5%）で、主に機械や電子機器、鉄鋼を輸入した。続くインド（10.8%）からは主に医薬品、自動車、機械などを輸入した。

■ケニヤッタ前政権下で経済成長も、公的債務が深刻化

ケニアでは2022年8月に大統領選が実施され、ケニヤッタ政権下で副大統領を務めていたウィリアム・ルト氏が新大統領に就任した。ケニヤッタ前大統領は自身のレガシーとして、様々な実績をアピールしている。例えば10年間で1人当たりGDPが2.6倍となったほか、実質GDP成長率の平均値は4.6%と好調で、海外居住者からの送金額は2013年の1,123億Kshから2021年には4,368億Kshに増加したとしている。

今後は、公的債務の管理が課題となる。2021年末の公的債務残高は7兆1,881億Kshだった。GDPに占める債務の割合は59.4%となり、財政を圧迫している。特に、二国間債務の71.5%を占める中国債の存在感は増している。現地通貨の平均為替レートは、2019年の1ドル=101.99Kshから2021年には7.5%上昇し109.65Kshだった。2022年6月には117Ksh台まで上昇している。併せて物価も上昇しており、特に2021年9月には消費者物価指数（CPI）が前年同期比6.9%まで上昇した。外貨準備高は2021年9月の96億ドル（輸入月数5.9カ月分）をピークに縮小傾向で、2022年4月には78億ドル（輸入月数4.6カ月分）だった。

■日本との貿易赤字は拡大、輸入は自動車が大半を占める

2021年の日本の対ケニア貿易は、輸入額が前年比13.6%増の7,722万ドル、輸出額は42.9%増の10億2,780万ドルだった。ケニア側からみると、日本に対して約9億5,000万ドルの貿易赤字となった。

日本の対ケニア最大の輸出品目は6億1,282万ドルの輸送用機器（構成比59.6%）で、前年比51.1%増だった。輸送用機器のうち約97%の5億9,744万ドルが自動車（四輪）だった。次に2億6,509万ドルの鉄鋼（25.8%）が続く。

最大の輸入品目は4,848万ドルの原料品（構成比62.8%）で、前年比13.9%増となった。その中で、構成比が約4分の1を占めトップシェアだった非鉄金属鉱（1,921万ドル）は、22.7%減となった。食料品（33.7%）が2,599万ドルで続いた。

■医療や環境ビジネスで

日本企業は活発な動き

国連貿易開発会議 (UNCTAD) によれば、2021年のケニアへの対内直接投資額 (国際収支ベース、ネット、フロー) は前年比37.5%減の4億4,800万ドルだった。

日本企業の動きをみると、医療や環境ビジネスへの出資参画や協業があった。ケニアのモンバサ輸出加工区で医療用品を製造するリ

バイタル (Revital) は2021年12月、日本の大原薬品工業とAAICから出資を受けたことを発表した。同社は11月、ビル&メリンダゲイツ財団からも400万ドルの助成金を受給した。製造ラインを拡張し、注射器の生産能力の向上を目指す。ケニアで植樹と木材の販売などを手掛ける林業スタートアップのコマザ (Komaza) は2022年3月、三井物産と米国のソブラト・フィランソロピー (Sobrato Philanthropies) から1,000万ドルを調達したことを発表した。2020年7月に調達した2,800万ドルと合わせて、フィールドやバリューチェーンの拡大、テックインフラの開発など進めるとしている。武蔵精密工業は、ケニアで電気バイクの開発と組み立てを行うエアーシルライド (ARC Ride) にモーターユニットを搭載したバイクを提供し、協業を発表した。日本の豊田通商と子会社であるCFAOが共同出資するモビリティ 54は2021年12月、ケニアを拠点にバッテリーの再利用に取り組むアクセロン (Aceleron) の第三者割当増資を引き受け出資した。

表3 日本の対ケニア主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:1,000ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2020年 金額	2021年 金額	2021年 構成比	伸び率	2020年 金額	2021年 金額	2021年 構成比	伸び率	
食料品	289	301	0.0	4.2	食料品	22,761	25,988	33.7	14.2
原料品	7,968	9,377	0.9	17.7	原料品	42,549	48,475	62.8	13.9
鉱物性燃料	129	252	0.0	95.3	非鉄金属鉱	24,863	19,210	24.9	△ 22.7
化学製品	10,343	10,374	1.0	0.3	化学製品	139	54	0.1	△ 61.2
原料別製品	216,470	281,627	27.4	30.1	原料別製品	742	309	0.4	△ 58.4
鉄鋼	203,949	265,089	25.8	30.0	非金属鉱物製品	648	84	0.1	△ 87.0
一般機械	41,927	55,885	5.4	33.3	一般機械	11	12	0.0	9.1
電気機器	4,159	6,860	0.7	64.9	電気機器	20	165	0.2	725.0
輸送用機器	405,703	612,816	59.6	51.1	半導体等電子部品	13	109	0.1	738.5
自動車	397,086	597,444	58.1	50.5	I C	13	109	0.1	738.5
乗用車	294,608	441,438	42.9	49.8	輸送用機器	11	36	0.0	227.3
バス・トラック	95,947	150,853	14.7	57.2	自動車の部分品	11	26	0.0	136.4
自動車の部分品	7,290	12,790	1.2	75.4	その他	1,723	2,181	2.8	26.6
二輪自動車	479	698	0.1	45.7	衣類・同付属品	855	943	1.2	10.3
航空機類	571	1,462	0.1	156.0	バッグ類	107	423	0.5	295.3
その他	32,160	50,308	4.9	56.4	総額	67,955	77,219	100.0	13.6
総額	719,148	1,027,799	100.0	42.9					

(出所) 財務省「貿易統計」(通関ベース) を基に作成

主要経済指標

	2019年	2020年	2021年
①人口: 4,940万人 (2021年)			
②面積: 58万1,309km ²			
③1人当たりGDP: 2,234米ドル (2021年)			
④実質GDP成長率 (%)	5.1	△ 0.3	7.5
⑤消費者物価上昇率 (%)	5.2	5.4	5.6
⑥失業率 (%)	n.a.	n.a.	n.a.
⑦貿易収支 (100万米ドル)	△11,861	△9,391	△12,837
⑧経常収支 (100万米ドル)	△5,287	△4,797	△5,938
⑨外貨準備高 (グロス) (100万米ドル)	8,848	7,750	8,817
⑩対外債務残高 (グロス) (100万米ドル)	28,079	31,470	35,042
⑪為替レート (1米ドルにつき、ケニア・シリング、期中平均)	101.99	106.47	109.65

〔注〕⑦: 国際収支ベース (財)

〔出所〕①③⑧: IMF、②④⑤⑦⑩: ケニア統計局、⑨⑪: ケニア中央銀行

(お問い合わせ先)

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp